

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報

2月

野菜の作業

～今年も健全な良品苗生産に努めましょう。～

たねまき	栽培管理のポイント
<p>ハウス育苗野菜の播種 春レタス：ウィザード等 キャベツ：YRSE等 春ハクサイ：優黄等 ネギ：夏扇2号 セルリー：トップセラール ブロッコリー ：フォレスト等 [果菜類] トマト：桃太郎 ナス：千両2号 ピーマン：京波等 キュウリ：トップグリーン等</p>	<p>育苗床土の選定 ひと口に育苗培土といっても野菜等の種類や育苗日数などを考慮し、使い分けることが大切となります。昨年も記述しましたが、基本的には低温期には育苗日数をやや長く要するので、高温期より多目の窒素成分を配合した床土を用います。また、果菜類も葉菜類より窒素成分の多い土を用いますので、購入の際には対象品目や成分量などを確認しましょう。葉菜類のセル成型育苗では、低温期には培地1ℓ中の窒素成分量が、レタスで100mg、ハクサイで150mg、キャベツ類で180～200mg程度のもので望ましく、果菜類では、育苗方式やセル等の大きさにもよりますが、200mg～400mg程度のもので望ましいです。 *果菜類にはJAで扱っているしなの園芸培養土「果菜類用」(ピンクの袋)が使いやすいそうです。(伊藤組合長談)</p> <p>F1品種と自家採種の利用 F1品種とは「一代交配種」などと呼ばれ親の良い形質を受け継いでいますが、一代限りで、種を採っても同じ性質の作物はできませんので注意が必要です。また、自家採種を行う場合、近くに異なる品種等の野菜があると交雑する可能性がありますので定期的に更新することをお勧めします。</p>

野菜育苗の目安（品種は代表的なものを挙げましたが、詳しくはJAにご相談ください。）

品目名(作型)	適品種	播種期	定植期	収穫期
トマト(半促成無加温)	桃太郎8、桃太郎7アト	1中～1下	3下～4上	5上～8上
" (ハウス雨よけ)	桃太郎	2下～3下	5上～5下	6下～11上
" (ハウス抑制)	桃太郎ヨーク、りんか409	5下～6中	7中～8上	9上～11上
ナス(露地普通)	千両2号(長卵形)	2下～3中	5中～6上	6下～10上
ピーマン(早熟トンネル)) (中型果)京波、京ゆたか、 京ひかり	2下～3中	5中～5下	6中～10中
" (普通)		3/中	6/上	6下～10中
キュウリ(半促成無加温)) トップグリーン、シャープ301等 南極1号、夏すずみ等	2下～3上	4上～4中	5上～7中
" (ハウス雨よけ)		3下～4中	5上～6上	6中～10下
" (普通)		4中～5上	5中～6上	6下～10上
" (露地抑制)		5中～6上	6中～7上	7中～10中
" (ハウス抑制)	I以外節成、大将、ズバリ163等	7上～7中	8上～8中	9上～11上
レタス(500～700m)	ウィザード等	1中～2下	4上～4中	5下～6中
	ステディ、ラプトル、イーザー等	3下～6上	4下～6下	6中～9中
	ジャホブ、マヤ、ジャグリーン等	7上～8中	7中～9上	8下～10中
ハクサイ(春まきハウス育苗)	優黄、彩黄、明春、晩抽大福等	2下～4下	3下～5下	5下～7中
" (夏まきハウス育苗)	大福、黄ごころ65、CR清雅66等	7上～8上	7下～8下	9中～11下
キャベツ(400～600m)	SE、YRSE等	2上～3中	4上～4下	6上～7上
	若峰、輝吉等	6下～7下	7下～8中	9下～10下
ブロッコリー(春まき)	フォレスト、ノースベル等	2中～4中	4上～5下	5下～7上
" (初夏まき)	ピクセル等	6上～7上	7上～8上	8下～10中
チンゲンサイ(春まきハウス育苗)	青帝等	3上～5中	3下～6上	5上～7上
" (初夏～夏まきハウス育苗)	ニイハオ4号、ニイハオ114等	5中～6上	6上～6下	7中～7下
	華江等	6上～7下	7上～8中	7下～9中
	醍醐味等	8上～8下	8下～9中	9下～10中
" (秋まきハウス育苗)	青帝等	8下～9上	9中～9下	10中～10下



農業豆知識

昨年の気象経過を振り返って

平成22年は、グラフのとおり気温変化の激しい年で、前半は低温気味に推移した反面、梅雨明け後の後半はいっきに記録的な暑さに転じるなど、農作物や農作業に様々な影響を与えた一年でした。

温暖化が進んでいるといわれる中で、今後もこのような天候になる確率が高くなると考えられることから、昨年の対応等を振り返り、春先等の低温期には、野菜等の初期成育を促進させるための保温等の管理や高温期には遮光・かん水などの励行、逆に大雨時の排水対策の実施といった小まめな管理など気象変動に対応した栽培管理に努めていただきたいと思います。

『月別の気象経過』

- [4月]** 低温、多雨、寡照となり、寒暖の差が大きく中下旬には強い寒気が流れ込み、平地でも積雪を観測したところがあった。
- [5月]** 寒暖の差が大きく上旬は晴れた日が多かったが、中旬には寒気が南下したことにより標高の高いところでは雪となった

[6月] 14日頃梅雨入りしたが、上旬には降雹を伴う雷雨が広い範囲であり雹害も発生した。

[7月] 前半は梅雨前線が本州付近に停滞することが多く、大気不安定な状態が続き局地的に雷を伴った大雨になった。梅雨明け後の後半は太平洋高気圧が覆い、各地で晴天が続き厳しい暑さとなった。

気象台では、「高温に関する長野県気象情報」を発表し、熱中症などの健康管理や農作物・家畜の管理に注意を呼びかけた。

[8月] 晴れた日が続く、日中の気温上昇や南からの暖かく湿った空気の流入により、午後には大気が不安定な状況となった日が多くなり、所々で雷雨が発生し上田では2日に1時間雨量が57mmを記録する激しい雨を観測し、土砂崩れ、床上浸水などの被害が発生した。

また、平年よりかなり高い気温（平均気温+2）となり、記録的な暑さとなった。

[9月] 前半は晴れた日が多く高温となり、後半は変更が周期的に変わった。上旬は日最高気温が9月としては統計開始以来第1位を記録した地点が多くなり、中旬以降は高気圧と低気圧が交互に通過したため天候が周期的に変わり、寒気の影響で気温の低い日があった。

また、雨も多く稲刈り等の作業に大きく影響し10月まで尾を引いた。

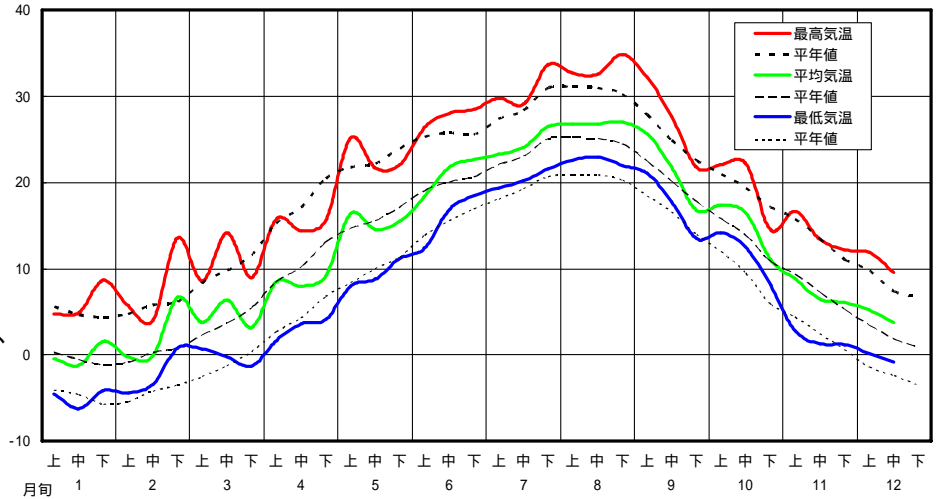
[10月] 上旬は晴れた日が多く気温は平年と比べるとかなり高くなったが、中旬以降は周期的に変わり寒気の影響で一時期低温となった日もあり、標高の高いところでは降雪を観測した。

[11月] 晴れの日が多かったが寒気の影響で気温が低くなり、平年に比べ低くなった時期があった。

4日朝には、放射冷却により各地で初氷を観測した。（長野地方気象台の解説を参考に記述。）

上田測候所の観測点データから

平成22年(2010) 気温(上田市)



平成22年(2010) 降水量・日照時間(上田市)

